

第1回総合計画策定員委員会 グループ討議での意見について(発表)

テーマ1:長岡市の現状について

テーマ2:10年後の長岡に向けて重視すべき視点

● 1グループ

- ・幅広く取り組みを進めているが、焦点が絞られておらず、まとまっていないという印象。東京からの企業誘致が先行しているが、商業の発展には地元企業が強くなる必要。
- ・地場産業の技術承継がうまくいっていない。人が足りず 50 代 60 代でも雇いたいという状況。長岡にもいい企業がたくさんあるので発信、ブランディングの旗振り役を市で進めてもらいたい。
- ・市と商工会議所など似たようなことを縦割りで進めている印象。いろいろな人が集まって事業を実施することで成果(税収増など)がでるようになるかと。税収の増加のためには、企業(専門家)との連携や、交流人口を増やすことも重要。
- ・出生数が減少すると小児科医が不要になっていく。そこをどう確保していくのが課題。現在研修医を増やしているが、成果が出るのに 10 年かかる。奨学金制度など、地元に残りたくなるような制度を。
- ・子育て施策は充実している。ただ、小学校に入ると親と子供と一緒に遊ぶところなくなる。

● 2グループ

- ・人口が減ることはいけないことなのか、人口が減っていても大丈夫な長岡にする必要がある。
- ・ただ子どもを産めばよいということではない。自分の人生を振り返っても子育てが自己実現、キャリアアップの足かせになっていると感じた時期もあった。
- ・人口減に緩やかに付き合っていくには、福祉・公共サービスの維持方法について考えていく必要がある。
- ・子どもは親だけでなくみんなで育てても大丈夫なまちにしたい。
- ・固定概念、バイアスがかかった考え方はなくす時にきている。婚姻関係に関わらず子育てができるが良い。
- ・子どもを安心して育てることができ、女性も男性も自分がやりたいように生きていけるようになるといい。

● 3グループ

- ・4大学1高専というワードは有名になりつつある。県外学生にも伝わっている。
- ・学生を大事にしていくべき。“長岡”の認知度が低い。アオーレ、ミライエを全く知らない学生がいる。大学、行政とも連携し、住んでみたい、残りたいというまちにしていきたい。
- ・長岡は寺泊など魅力があり交流人口が多い地域がある。今後、人口減は止められないという認識。市全体としてアピールすべき。
- ・外国人が必要。労働者の重要性。ただ高齢者は拒否反応が出てしまう。拒否反応が出ないように、外国人も住みたくなる魅力あるまちにしていく必要がある。
- ・町内会、まちを維持するために、若者が役員できるように、面倒くさくない町内会の維持も必要。

● 4グループ

- ・人口減少は仕方がない、人口減少の緩和を目指す必要がある。
- ・4大学1高専、残すために頑張る生活の基盤づくり。企業の頑張り。市外・県外・世界から人を呼ぶ。
- ・お金がなくて子どもがつかれない、そのための対策が必要である。
- ・高齢者の寿命を延ばすことが人口減少の緩和に繋がる。
- ・ウェルビーイングを重視すべき。魅力あるイベントはあるが本質的なイベント、支所地域の活用など。
- ・10年後に向けては、KPI、数字を重視していく計画を作らないといけない。PDCA を回し、アンケートで KPI を評価。現時点で持っているアンケートも使って先に動いていくべき。

● 5グループ

- ・産業構造についても、建設業や製造業が多い。若者は IT 企業となると東京に流れる。そのほか、人口現状は仕方がないが、他市・他県とパイを奪い合っているため、解決は難しいという意見が出た。差別化が必要になるが、長岡市では、例えば、NaDeC 構想がシーズになるだろう。
- ・外国人が 2600 人、10 年後には 4000 人に増加することが予想されている。一方で、増加する DV、虐待相談への対応や日本文化への浸透等の観点において教育が必要だと意見が出た。
- ・子育て環境の支援、母親への支援プランが必要だろう。
- ・人生設計として、健康に過ごしていただくことで地域に活力を与えていただくことが重要だろう。
- ・生産性向上が課題となる。デジタルを利用した生産性向上のため、デジタルリテラシーを高めることが必要。小学生からデジタルを打ち出した教育のブランディングが必要だろう。

● 6グループ

- ・議論のテーマの設定が曖昧という指摘。次回に向けてやってほしい。
- ・10年後は責任を持たない。
- ・人口減少対策は何か。働き方改革。市民の意識改革。行政から積極的に実施してほしい。行政のノウハウを市民、企業へ広めていく。
- ・市職員の副業、兼業を認めるべき。人材の流動性が生まれ、余裕が生まれ、人材活性化、交流の中でワークライフバランス、子育て、家族増やすことにつながる。
- ・少子高齢化は止められない。人口減少は悪ではない。一人一人の幸福度が重要。高齢の方もかなり働いている、健康寿命を全う。余裕を持つことが重要。
- ・支所地域をどうしていくのか、置いてけぼり感があるのでは。コンパクトシティの考え方。中央には集まれる人が集まり、余裕が生まれる。支所地域で必要ならば中央にいる人が手伝える。みんなで支え合う、地域、企業で分担できれば。
- ・子どもを持つことが難しい。LGBTQ の考え方で、子どもを生めなくても家族になることはできる。従来のやり方でなく、無理を受け入れることで突破口になるのでは。